

企画名： 原発反対 30 年！！ 未来に輝け上関・祝島

実施日時： 2012 年 1 月 14 日 17:00～18:30

実施場所： パシフィコ横浜会議センター 3F 313+314

つとむ

登壇者： 木村 力 （上関原発を建てさせない祝島島民の会運営委員）

高島美登里（長島の自然を守る会代表）

参加人数： 150 名

文責： 花田恵美代（上関原発どうするの？ ～瀬戸内の自然を守るために～）

最後の原発新規立地といわれる山口県の上関原子力発電所計画。昨年の 3.11 の事故を受けて中断していますが、中国電力、上関町ともに計画の推進をまだあきらめてはいません。私たち「上関原発どうするの～瀬戸内の自然を守るために～」のメンバーは、この計画を中止することが日本の脱原発に大きな影響を与えるだろうと考えています。そこで今回、「上関原発を建てさせない祝島島民の会」と

かみのせき いわいしま

「長島の自然を守る会」との共催で、「原発反対 30 年！！ 未来に輝け 上 関 ・ 祝 島」を企画しました。

つとむ

「上関原発を建てさせない祝島島民の会」の木村 力 さんによる祝島の 30 年にわたる反対運動の歴史、「長島の自然を守る会」代表の高島さんによる長島の自然の豊かさについての話のほか、昨年行われた上関町長選挙を取り巻く事情、原発のない町づくりを今後どのように展開していくかということについて、それぞれ報告してもらいました。

参加者は約 150 人。その方々に、昨年の 3 月 11 日以前に上関原発のことを知っていたか挙手をお願いしたところ 6～7 割の方が、祝島に行ったことのある方という質問には約半数の方が手を挙げてくださいました。上関原発計画に対して高い関心を持っている方が多く参加してくださったようです。

その参加者の中からは、3.11 後上関町民の意識に変化はあったかという質問がありました。それに対し、原発はイヤだという雰囲気が上関地区でもずいぶんかもし出されてきたものの、地縁・血縁の強い土地柄なので、残念ながらそれが選挙には結びつかなかったと、登壇者二人の共通した答えでした。

それでも、原発推進の立場だった人が、3.11 の事故後、やはり漁で生きたいという思いから、高島さんたちと一緒に魚の産直の取組みを始めたそうです。中国電力によって打ち壊された上関町民の誇り（一次産業では食べていけないと言われ続けた）を取り戻すことに力を尽くしたいという高島さん

の言葉がとても印象的でした。祝島でも、土地柄にあこがれてIターンしてくれる人がいたり、祝島を100%自然エネルギーの島にするための取組みが行われたり、祝島も、祝島以外の地区でも、次のステップに向かって力強く踏み出している様子が伺え、このイベントを企画してよかったとメンバー一同喜んでいきます。

